

## 「別海町新聞の日」がスタートしました

7月16日に、町内全児童・生徒1315名に北海道新聞を配布しました。

今後、NIEコーナーがある毎月最終月曜日の北海道新聞の朝刊と子ども新聞「まなぶん」を、全児童生徒へ配布し、子どもたちに新聞を読んでもらうとともに、学習に活用していきます。※7月は16日と27日の2回行いました。

この日、道新本社から「ぶんぶん号」(写真①)が中央小へ来て、中央小版と中央中版「号外新聞」(写真③)を発行してくれました。

さらに、同社のNIEコーディネーターの方に中央小5年生で授業をしていただきました。(写真②)

また、前日には全小中学校の担当の先生方を対象に、道新が講師を務めて研修会を行いました。

写真①



写真②



写真③



※NIEとは 新聞を学校で教材等として活用すること。

## なぜ、本町ではNIEを推進するのか

本町では、平成30年度から全小中学校へ、ワークシートが充実している「読売新聞」を、昨年度から小学校へ「読売こども新聞」、中学校へ「読売中高生新聞」を新聞台(⇒右写真)とともに毎日配布しています。

昨今ではネットで情報を得る人が多く「オールメディア」「レガシー(遺産)メディア」などと言われる新聞ですが、ネットをはじめとする他のメディアと比べると、こんなメリットがあります。



①他のメディアに比べて確実性、信頼性、網羅性が高い

確実性

信頼性

網羅性

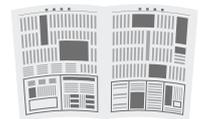


②焦点化し検索をするネットと比べて、大局的な視点で、知らない情報を得ることができる



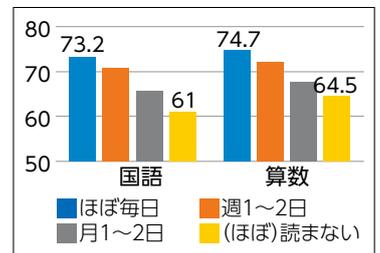
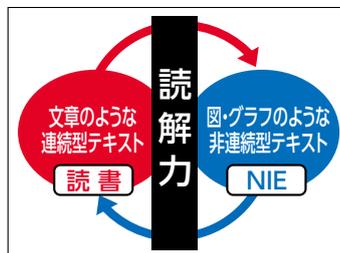
焦点化⇒検索したものだけの情報を得る

大局的な視点⇒知らない情報を得る



本町では、文部科学省が学習指導要領において「言語能力」を学習の基盤とした平成29年度以前から「ことばの力」を「学びの土台」と位置付け、新聞を教育に活用する「NIE」と「読書活動」を推進しています。

特に「読解力」については、非連続型テキストである「NIE」と連続型テキストである「読書活動」を併行して取り組むことで相互効果が高まり、「読解力」が身に付くと言われています。右のグラフは昨年度の全国学力学習状況調査の各教科の正答率と「新聞を読む」こととのクロス集計結果(全国の小学校結果)で、新聞を読む習慣と正答率の相関が表れています。※中学校も同様の結果です。



## 今後のNIEの推進に向けて

本町では、このNIEを「点数(テスト等の学力)を上げるための取り組み」ではなく、「結果として点数が上がる取り組み」だと考えています。さらに、将来のふるさと・べつかいを担う子供たちが、NIEをはじめ「学びの土台」を築いていくことで、本町のCITIZEN(公民)としての「民度」につながっていくと考えます。

「教育は成果が出るまで時間がかかる」と言われますが、特にこの「学びの土台づくり」は、より時間がかかります。各校では、NIEをはじめとした取り組みを積極的に進めており、全国学調児童生徒質問紙では「新聞を読む」「読書が好き」という回答が全国平均を大きく上回るなど、一定の成果も現れています。

問合せ/別海町教育委員会(内線3503)